

## 意見文の根拠に新聞活用！ ～説得力のある文章を書くために～

指定校 2 年次 御代田町立御代田中学校 荒井 麻耶

### (1) 本年度の N I E 活動の概要

本校の全校研究テーマは、昨年に引き続き、『生徒が授業をデザインし、友との関わりの中で学びを深めていく教科指導～生徒の意識に沿った単元のねらいと必要感のある友との関わり場の設定～』である。本年度の N I E の授業実践にあたっては、昨年度と同じ学級にて授業公開をすることとし、新聞を読むことへの抵抗感が少ない生徒たちと共に取り組んだ。また、新聞活用のための特設単元にならないよう、国語科の年間指導計画の中に自然にとけこむような新聞活用を目指した。毎年、文化祭での意見文発表会に向けて全校が意見文を書く 1 学期に、3 学年において、その“根拠”の一部として新聞の記事を扱うこととした。

### (2) 本年度の N I E 活動をはじめる前の状況

本校は、全校生徒 402 名、16 クラス（特別支援学級 4 クラス）の学校である。

本校の 3 学年の生徒たちは、国語科の学習活動に対して素直に、熱心に取り組むことができる。新聞活用には慣れてきたため、興味のある記事を見つけたり、大切だと思うところにラインを引いたりして読むことができる。一方で、自分の考えを深めたり、発信したりすることに対して自信がない生徒も多い。

### (3) 公開授業以外の N I E の取り組みの状況

昨年度は、授業中に新聞を読むことが多かったが、他社の新聞もたくさん届くため、3 学年教室棟の廊下に、新聞コーナーを設置した。毎日、そこに新聞を置き、1 週間ずつ交換を行った。3 年のある生徒は、「こんなにたくさんの新聞を読むことができる機会はほとんどない。貴重すぎる。もっと、みんな、読めば良いのに。もったいない！」と発言していた。

### (4) 公開授業などの活動内容

#### 1. 単元名

『聞いて！

わたしの意見！』

授 業 日	令和 7 年 7 月 15 日（火）	6 校時
指 導 者	水明小学校 校長	金井直樹先生
授 業 学 級	3 年 3 組 男子 15(1)名, 女子 13(1)名 / 計 28(2)名	
授 業 者	荒井 麻耶	
授 業 会 場	3 年 3 組 教室	

#### 2. 単元の目標

- (1) 文章の種類とその特徴について理解を深めることができるようにする。【知識及び技能 (1) ウ】
- (2) 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができるようにする。【B 書くこと (1) オ】
- (3) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性 等】

### 3. 評価規準

知識及び技能★	思考力, 判断力, 表現力等●	主体的に取り組む態度◆
意見文の特徴について、理解を深めている。 ( (1) ウ)	論理の展開について、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章をよりよくしようとしている。 ( B (1) オ)	論理的に考え、共感したり想像したりして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。 (学年の目標 (2))

### 4. 単元計画

	学習内容	評価
第1時 【個人】	◇気になる記事を探して、考えを書こう！ ・リード文は、5W1Hの読み取りをすること。	◆
文化祭の意見文発表に向けて、新聞記事を根拠の一つにして意見文を書こう！		
第2～4時 【個人】	◇意見文の書き方を確認しよう！ ◇選んだ新聞記事を根拠に、自分の考えを深めよう！ ) どちらでも ◇考えの根拠となる新聞記事を選ぼう！ ◇構成を決めて意見文の下書きをしよう！	★ ◆
第5時 【全体】	◇推敲って何だろう？(教科書P.120/121)	★
第6時 【グループ】 【個人】	◇推敲しよう！ … 【本時】	●
第7時 【個人】 【グループ】	◇意見文を清書しよう！ ◇互いの“意見”を聞き合おう！	●

### 5. 本時の主眼 (第6時/全7時間)

意見文の下書きをした生徒たちが、自分の考えが伝わる文章になっているかを確認する場面で、前時に作った「推敲のポイント」を用いてアドバイスし合うことを通して、よりよい文章になるような改善点を見つけることができる。

### 6. 展開 (本時案)

段階	学習活動	予想される生徒の反応	支援/評価	時間
導入	【前時から続く学習問題】 自分の考えが伝わる文章になっているだろうか？			
	1. 昨日の学習を振り返る。 【全体】	・昨日は「推敲のポイント」を確認しました。 ・自分が書いた意見文は、実体験が少ない気がしてきたな。	・前時にまとめたことを掲示したり、プリントを配布したりして、視覚的に確認できるようにする。	3
	2. 今日の課題を確かめる。 【全体】	・はやく読んでもらいたい。言いたいことが伝わるといいな。 ・「推敲のポイント」があれば、推敲ができそう！		2
【学習課題】 「推敲のポイント」に沿って意見文を読み合い、アドバイスをし合おう！				

展開	3. 意見文で、自分が言いたいこと(主張)・構成・下書きをしてみていること等を伝え合う。 【グループ】	<ul style="list-style-type: none"> <li>私は、「命は平等である」ということを伝えたい。はっきり伝えたいから、最初に書くようにしたよ。そのあと、本論で、新聞記事の内容と、自分の体験を書いたよ。</li> <li>新聞記事の内容から書き出して、最後に言いたいことを書きました。もしかしたら、自分の体験を書いた部分が少ないかもしれない…。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下書きで使った学習カードや新聞記事などを各自の手元に準備しておき、それを見ながら話せるようにする。</li> <li>下書きでの悩みを捉え、全体で共有する場面を設ける。</li> </ul>	10
	4. 友だちの意見文を読み、アドバイスを記入する。 (1人8分 × 2人分) 【個人】	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の間違い、直しておくね。</li> <li>主語が無いから、この文は何を言っているのかよく分からないな。</li> <li>最初に言いたいことを書くと、何についての意見文なのか、よく分かるね。</li> <li>新聞記事を読んで、こんなふうと考えられるなんて、すごい。普段から、「平和」についてたくさん考えているんだね。</li> <li>問いかけるような文末で書いているから、自分も「人権とは何なんだろう」と考えさせられたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良いところ(ピンク色の大きい付箋)と改善点(黄色の小さい付箋)を分けて書けるように、2種類の付箋を用意する。</li> <li>改善点を書くことに困っている生徒には、「推敲のポイント」の中から、観点を絞るように伝える。</li> </ul>	17
	5. 自分の意見文に書かれたアドバイスを確認する。 【グループ・個人】	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇さんの書き出しがいいなと思ったから、ちょっと写させてほしい!</li> <li>誰でも書けるような意見文だな。自分の体験をもう1つ入れよう。</li> <li>たくさんのアドバイスがあって、どうしようか迷ったけれど、言いたいことを最初に言うことは変えずに、本論の中で、段落の順番を入れ替えようかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>付箋に書かれた内容について、理解を深めるためにお互いに会話しても良いことを伝える。</li> <li>全てのアドバイスを取り入れなくても良いことも伝える。</li> </ul>	10
終末	6. 学んだことや考えたことを振り返りシートに記入し、共有する。 【個人→全体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちに、言いたいことが伝わって嬉しかった。</li> <li>漢字のミスと、主語がない文があったので、次回、修正したいです。</li> <li>友だちの意見文を読んだら、感動しました。新聞記事を読んで「平和」について感じたことや、体験をもとに考えたことがたくさん書かれていました。</li> <li>言いたいことを相手に伝えるためには、根拠が大事だということが分かった。新聞記事の事実と、自分の体験をもう少し詳しく書こうと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アドバイスの生かし方に着目した振り返りを中心に共有する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>よりよい意見文になるような改善点を見つけることができている。 (グループ活動の様子や、意見文への書き込み、発言、振り返りシートの記述など)</p> </div>	8

◇授業中の生徒たちの様子



〈意見文を読み合いアドバイスを書く様子〉



〈振り返りを共有している様子〉

◇授業後の生徒たちの振り返りより

- ・友達の意見文を読むのはすごく面白かった。自分の意見文にも改善点の付箋が貼られていたの  
でまだ改善すれば、良い意見文ができるなど、わくわくした。
- ・友達の自分への直した方が良いところのコメントを見たとき、思っていなかったことが書かれてい  
て、それを見て、納得して、もう一度、構成を考えようと思った。
- ・自分が不安だと思っていたところが、「良かった」と言ってもらえていて、自信につながったし、友  
達に読んでもらって、さらに良くなった気がする。
- ・友達の意見文を読んでみて、自分と違う構成や、記事の引用の仕方があって、こんな書き方もあ  
るんだと学ぶことができた。
- ・友達からの意見を大切にして、自分の思いがより伝わりやすくなるような、すてきな意見文にしたい。
- ・自分が文章を書いているときに気づけなかった改善点を見つけてくれて、自分にはどんな癖があ  
るのかということが少し分かった気がします。また、この機会があったことで、次から自分が文章を  
書くときに、気を付けることができるかもしれないなと思いました。

#### (5) 1年間取り組んだ成果と課題

特設単元にせず、いかに年間計画の中に落とし込んで新聞活用をするかに取り組んだ結果、  
少し、負担感が軽減された気がした。本年度、新聞活用を取り入れようと考えた「意見文を  
書こう」は、毎年全学年で行う単元である。意見文の根拠として、実体験だけでなく、新聞  
記事の事実を取り入れることで、説得力がうまれると考えた。新聞記事から分かったことを  
さらに調べたり、類似する記事を探したりと、意見文を書くための材料探しを、もっと深め  
ていくことができるかもしれないと感じた。

昨年度の実践の最後にこのクラスの生徒たちからの言葉を、今後も忘れないようにしたい。

- ・新聞を使って学ぶと、自分の考えが広がったり、新しい考えが浮かんだりする。
- ・新聞を使って学ぶと、自分はどうか考えるのかと思いをめぐらせることができる。
- ・今、世の中で起きていることとまっすぐ向き合い、自分たちが何をすべきなのかを考  
えることができる。

NIEの実践を通して、記事を読む機会が増えることで、さまざまな物事への関心が高ま  
っていた。国語の学習としての振り返りや、生徒たちの見取りをもう少し丁寧にできると良  
いと感じた。

2年間、ありがとうございました。